

# 第2部

# 丹沢と私たちの暮らしを考えよう ～丹沢がピンチ!～



## 今、丹沢で起きていること

丹沢おおやまそうごうちょうさの結果から、傷つき病んでいる丹沢の現状が明らかになってきました。

神奈川県では、丹沢の自然を再生するための計画をつくり、さまざまな取組を実行しています。

### ◆かけがえのない生きもの◆



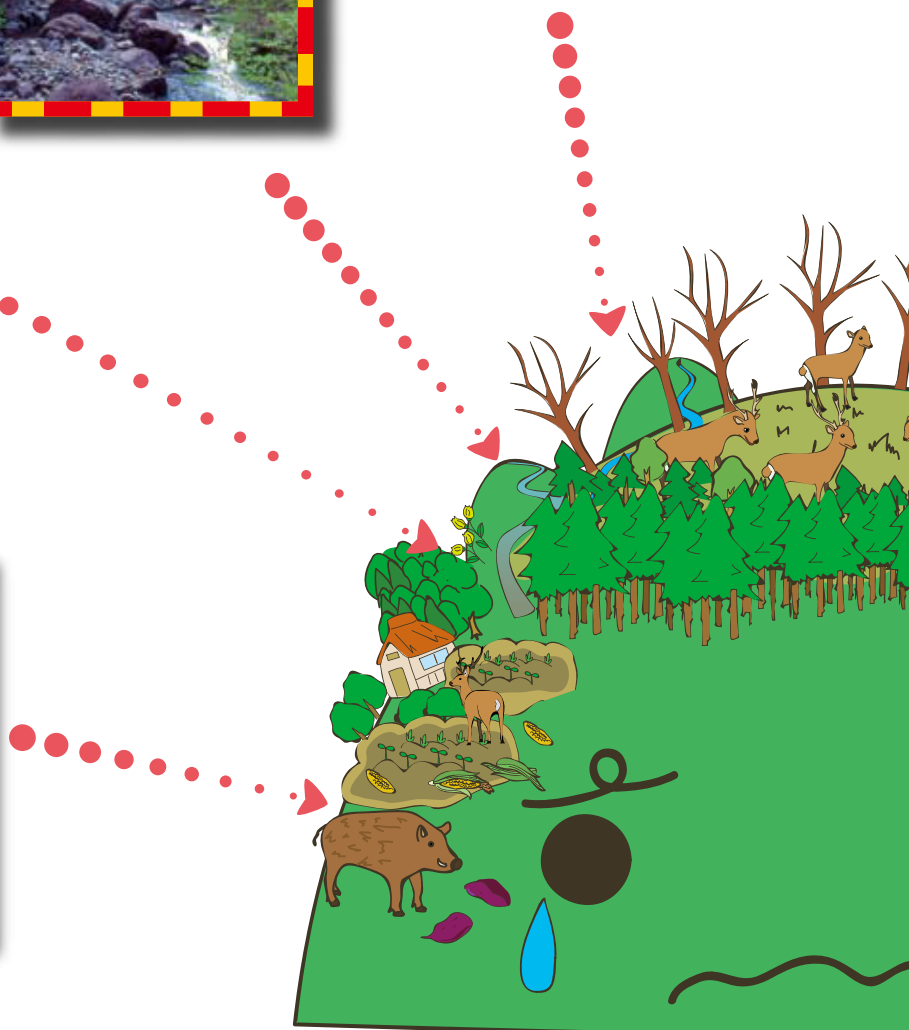
### ◆けいりゅうのピンチ◆



### ◆人が育てる森林のピンチ◆



### ◆里山のピンチ◆



ふ  
◆増えすぎたシカ◆



◆フナ林のピンチ◆



◆オーバークース◆



ふ  
◆増える外来生物◆



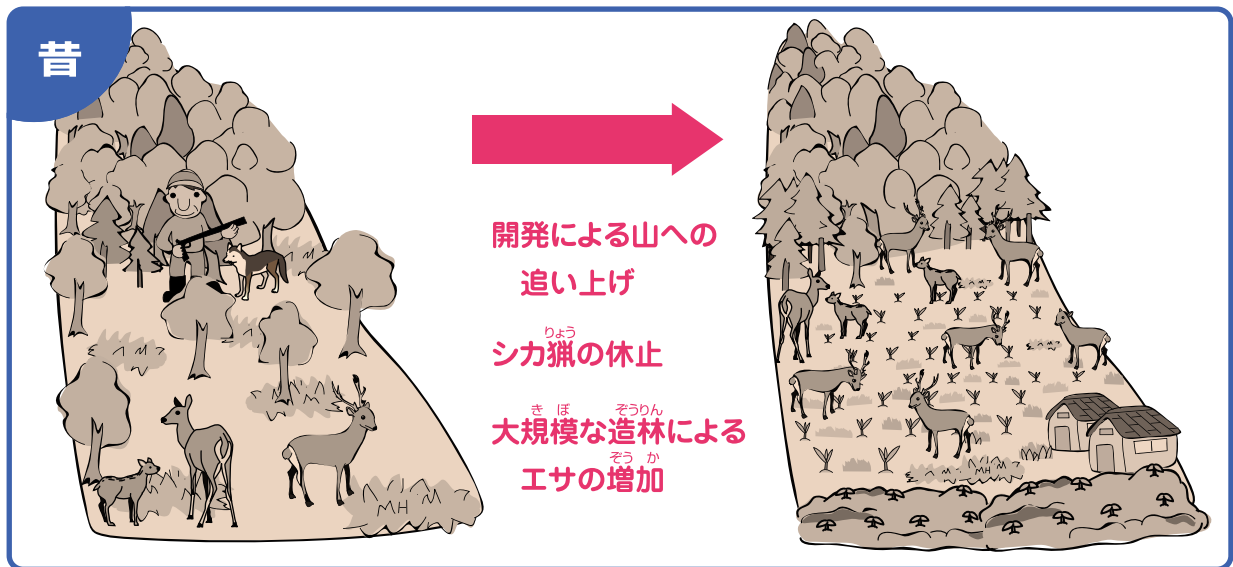
？ 外来生物とは ？  
もともとはいないはずの場所に人間が  
持ち込んでしまった生きもの。



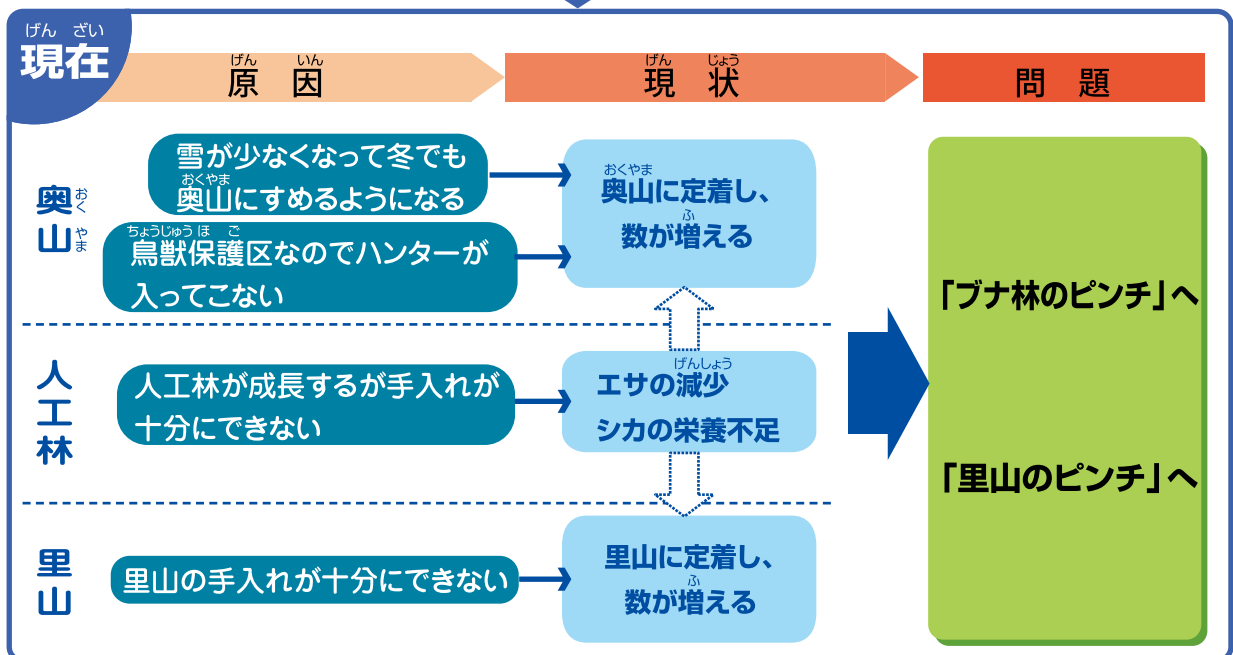
# ◆ 1. 増えすぎたシカ ◆

丹沢山地のシカは、2004・2005年（平成16・17年）度の調査では、3,700～4,500頭といわれています。

シカが増えたことで、奥山では下草が食べられ、生きものの種類や数が減り、里山では農作物にも被害が出ています。

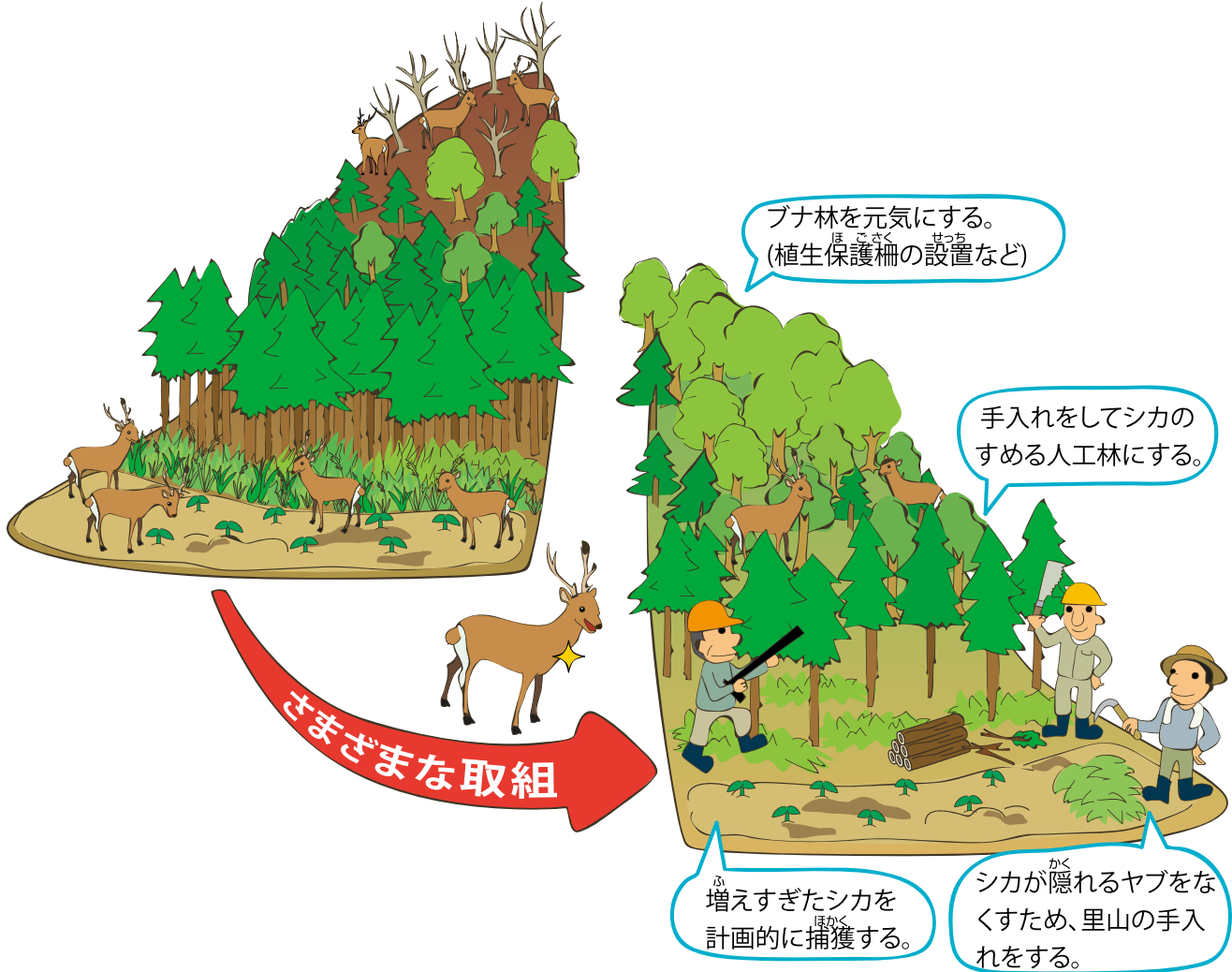


造林地への大規模なシカ柵の設置



## ■シカともにくらすために■

げんざい たんざわ かぎ  
 現在、丹沢山地の限られた場所に、多くのシカが集まってすんでいるため、さまざまな問題を引き起こしています。そこで、シカもすすめる森林を整えるなどの取組を進め、シカが限られた場所に集まってすまないようにしていかなければなりません。



### ！ 丹沢山地に適したシカの数を保つ必要があります ！

おくやま  
 奥山では、シカが増えて密度が高くなったため、管理捕獲によって密度を下げます。人が育てる森林では、森林の整備とあわせてシカの数を調整しながらシカもすすめる森林づくりを進めていきます。里山では、農地にシカが入れないように柵をつくったり、ワナをしかけて捕獲します。このように丹沢山地の環境に適したシカの生息地の管理とシカの数の管理を行っていく必要があります。

シカの数や生息地の環境については、調査を続けていきます。この調査結果により、シカの保護管理を行っていきます。

ほかく しゅりょう くじょ  
 2001～2005年(平成13～17年)の5年間の管理捕獲、狩猟、有害駆除をあわせたシカ捕獲数の平均は767頭になります。

※第2次神奈川県ニホンジカ保護管理計画より

## ◆ 2. ブナ林のピンチ ◆

丹沢山地では、鍋割山、塔ノ岳、丹沢山、蛭ヶ岳、檜洞丸など、中央から東側の頂上に近いところで、ブナ林が枯れているのが目立っています。

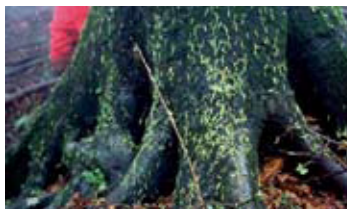


立ち枯れしたブナ林（檜洞丸山頂付近）

### ● ブナ林が枯れることによる問題 ●



※ブナハバチの幼虫 (ブナの葉が大好物)



ブナの幹を登るハバチ類の大群

何が起こるか考えてみよう！

## ■ ブナ林を元気にするために ■

ブナ林の元気を取り戻すために、増えすぎたシカの密度を減らすとともに、森林がなくなってしまった場所に苗木を植えたり、下草が生え若木が育つように柵をつくったりして、長い時間をかけて、ブナ林を再生する取り組みが行われています。

また、ブナ林の元気がなくなる仕組みを明らかにするために、さまざまな調査をしています。



ボランティアの人たちが、丹沢でとれた種子から育てた苗木などを植えています。



シカが入れないように柵でかこんで植物を保護します。(清川村丹沢山)



ブナ林のシカの数や行動について調査していきます。



枯れてしまったブナを調査して、その原因を確かめます。



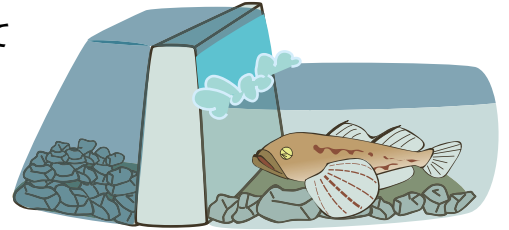
1938年(昭和13年)ころの塔ノ岳山頂付近のブナの大木におおわれていました。



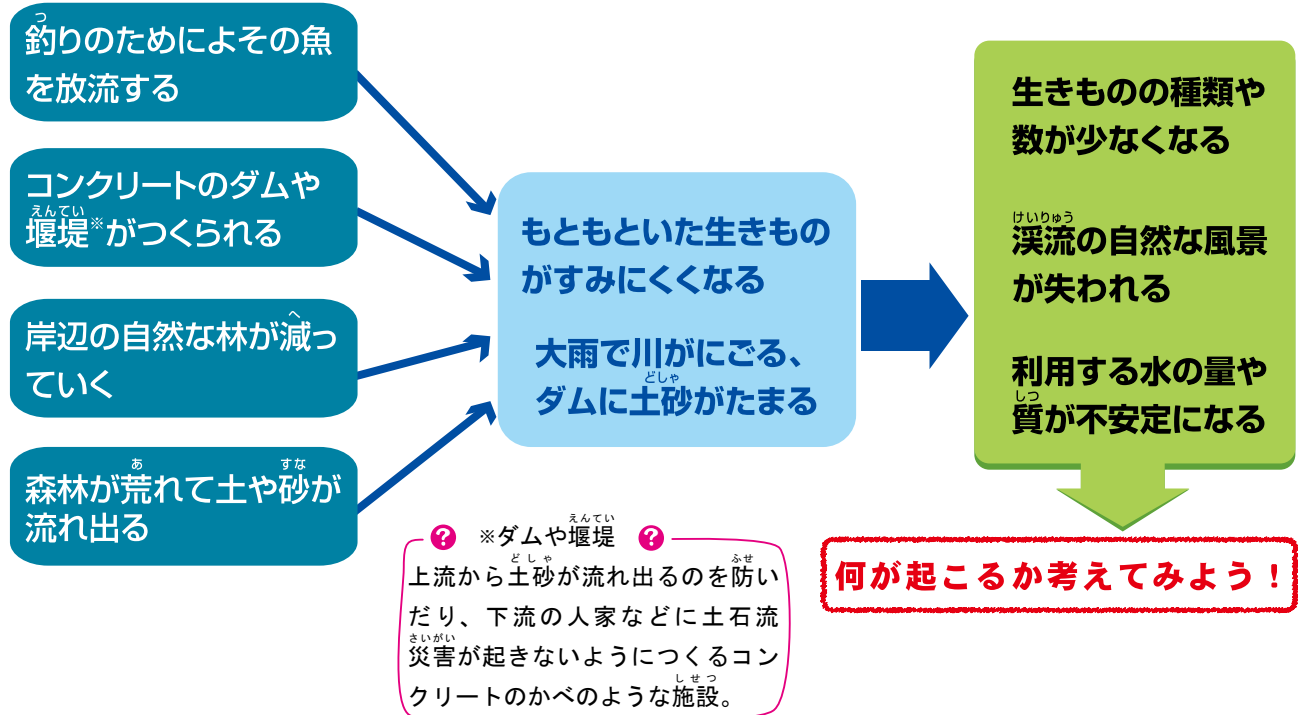
ひるがたけげんざい とうのたけさんちょう  
蛭ヶ岳がみえる現在の塔ノ岳山頂付近  
ブナの木は、すっかり消えてしまっています。

### ◆ 3. 渓流のピンチ ◆

渓流の流れに大きな落差ができると、たてのつながりが分断されるため、そこにすむ生きものが孤立してしまうなどの問題が生じてしまいます。



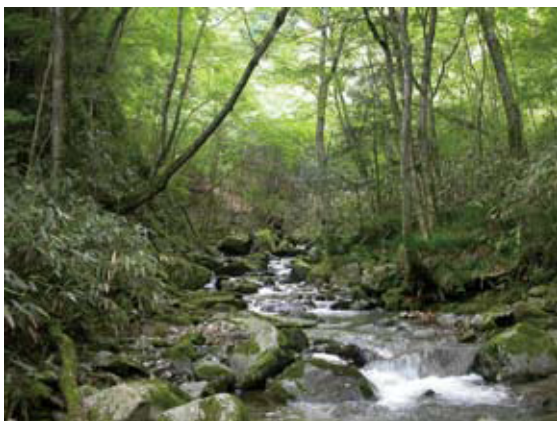
#### ● 渓流の問題 ●



#### ■ 渓流の自然をまもるために ■

渓流でくらす生きものの生活の場を豊かにするために、水辺の森林を元気にしたり、土砂が渓流に流れないようにしていきます。

また、コンクリートの人工物については、まわりの自然と調和をとって、生きもののかしや風景に大きな影響がでないように工夫をします。



水辺の森林を元気にする



森林の土砂が流れ出さない工夫

## ◆ 4. 増える外来生物 ◆

今世界中で、「外来生物」が増え、もともといた生きものに影響が出るなど、大きな問題になっています。

丹沢とその周辺でも、林道をつくる時に種をまいた北アメリカ原産の牧草や、釣り目的に放されたブラックバス、ペットだったアライグマ・ガビチョウなどが増え始めています。

### ! 「アライグマの被害は？」 !

アライグマの被害は、大きく3つあげられます。

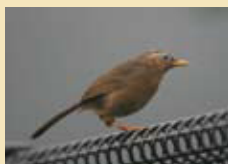
1. **農業被害** スイカやトウモロコシなどの農作物が食べられてしまう。
2. **生活被害** 家の天井うらをウンチやオシッコで汚したり、ネコなどのペットをおそう。
3. **生態系被害** 三浦半島ではトウキョウサンショウウオやアカテガニなどの貴重な生きものが食べられてしまう。また、タヌキやキツネのエサを横取りする。



県では、今後10年間で野外のアライグマを0頭にするために捕獲を進めています。

アライグマをみかけたら、すぐに市町村の役場に連絡しましょう！

## WANTED!



ガビチョウ



カミツキガメ



ブラックバス



ブルーギル

現在、ブラックバスやブルーギルは、丹沢湖、宮ヶ瀬湖で増え続けていると考えられます。

それら2種はもともとすんでいた小魚やエビなど、なんでも食べてしまうため、全国で大きな被害が出ています。

### ■ 外来生物から丹沢の自然をまもるために ■

外来生物は、それぞれの地域で動物や植物をおびやかすだけではなく、地域の産業や人の命にもかかわる大きな被害をもたらすことがわかってきました。丹沢でも、外来生物をこれ以上増やさないように「入れない、捨てない、拡げない」というルールにもとづいた対策が始まろうとしています。



## ◆ 5. かけがえのない生きもの ◆

丹沢山地の豊かな自然は、多くの生きものの命をはぐくんできました。しかし、さまざまな原因により数が減り、このままでは絶滅してしまうかもしれない生きものもいます。



サガミジョウロウホトトギス  
神奈川県レッドデータブック (県RDB) ※絶滅危惧 I B 類



ヤマネ  
県RDB 絶滅危惧 II 類

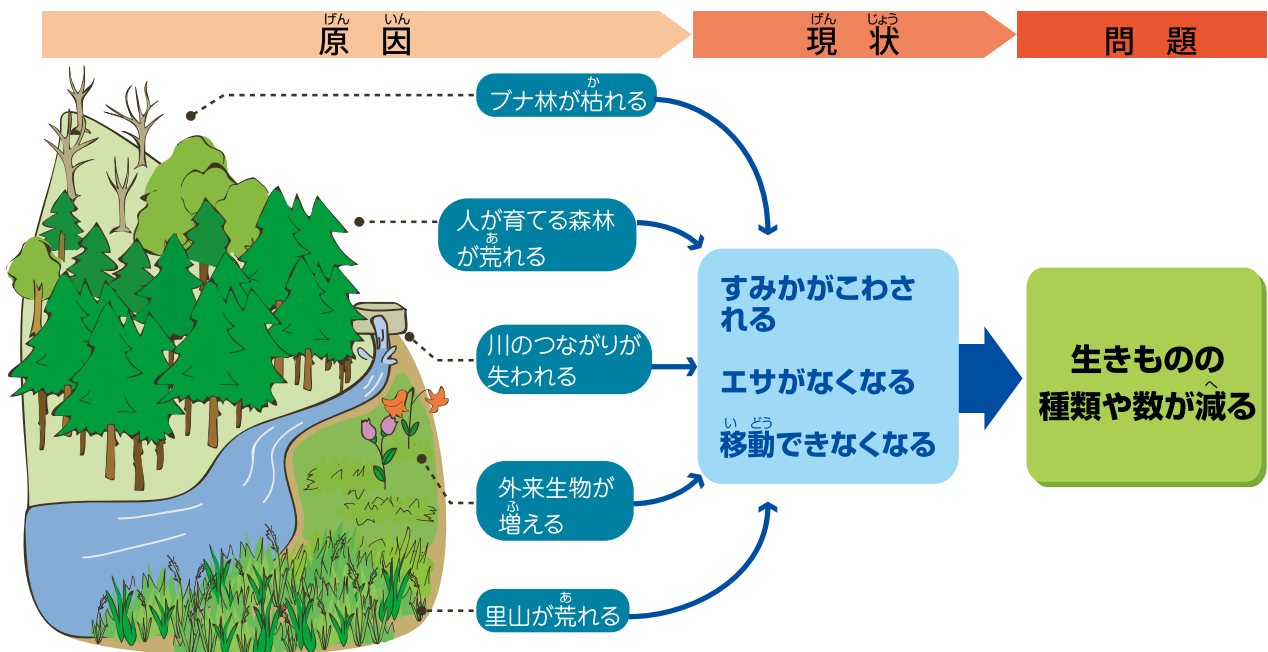


ヒダサンショウウオ  
県RDB 絶滅危惧 II 類



ムラサキツリガネツツジ  
県RDB 絶滅危惧 I B 類

### ● かけがえのない生きもの の問題 ●



■丹沢の生きものたちのくらしをまもるために■

丹沢山地には多くの生きものがいます。丹沢の自然の中で、長い時間をかけて、生きものたちは、お互いの関係をバランスよく保ってきました。たった1種類の生きものが、丹沢から姿を消しただけでも、このバランスが崩れてしまうかもしれません。

丹沢がはぐくんできた多くの生きものを守るため、失われた森林の下草が再び生えるようにするなどして、生きものたちのお互いの関係をバランスよく保てるようにします。



！ レッドデータブックとは？ ！

レッドデータブックとは、絶滅のおそれのある生物種をとりあげ、自然保護における優先順位を決定する手助けとなる種の分布や生息状況などの情報をまとめた本で、IUCN（国際自然保護連合）が1966年（昭和41年）に初めて作成しました。

日本においても、環境省がレッドデータブックを発行しており、各都道府県や学会においても独自のレッドデータブックが作成されています。

かながわ 神奈川県レッドデータブック

かながわ 神奈川県では、1995年（平成7年）に「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」が作成され、2006年（平成18年）には、4年がかりの改訂作業を経て、最新版の「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」が作成されました。



かながわ 神奈川県レッドデータブック 2006WEB版 <http://www.e-tanzawa.jp/rdb06/>

## ◆ 6. 人が育てる森林のピンチ ◆

人工林は、間伐などの手入れをしないと、光が森林内に入りこまないため下草が少なくなってしまう。丹沢山地では、シカが下草を食べてしまうことも加わって、状況は深刻です。下草のなくなった森林は、水をたくわえる大切な役目をもつ土が乾そうしたり、雨で流れ出してしまう。



荒れた人工林 細い木が多く、下草もなく、根っこがむき出しになっている。

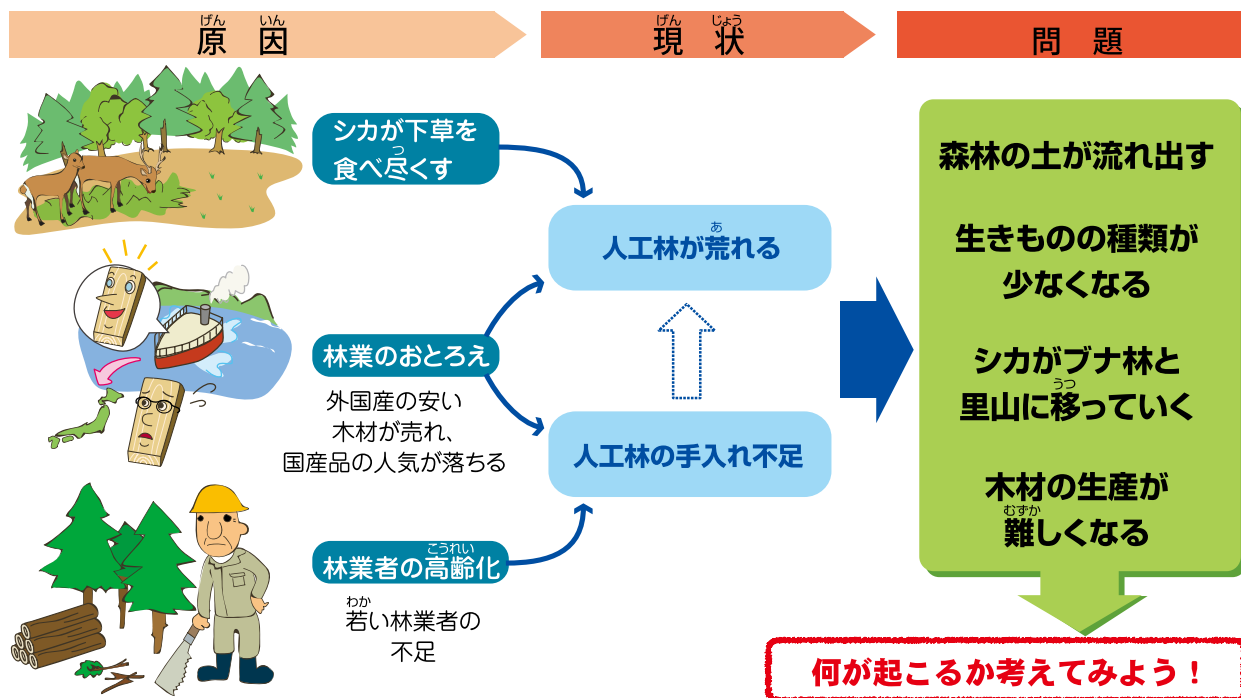


大雨の後、森林の土が泥水になって中津川に流れこんでいるようです。

(2004年(平成16年)6月22日)

### ●人工林が荒れる原因●

丹沢山地では、自然の森林を大規模に伐採しながらスギやヒノキを植林してきましたが、外国から安い木材が入ってくるようになって、丹沢山地の木材は使われなくなり、人工林の手入れもされなくなりました。

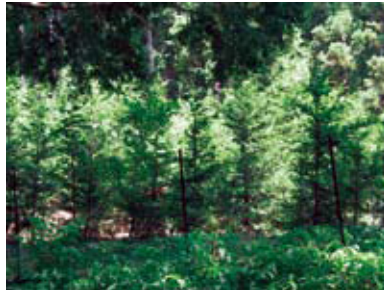


■人工林を元気にするために■

その場所の持ちょうにあわせた森林整備を進めます。



したくさがたくさん育つ元気な人工林。



ヒノキの若木や下草がシカに食べられないように、柵で囲っています。



ボランティアの人たちがスギ林の手入れをしています。

丹沢産の木材の活用を進め、多くの人に木の良さを知ってもらい、使ってもらいます。



いっこだてじゆうたく 一戸建住宅



家具（椅子とテーブル）



はだのし たんざわ けんしゅう 秦野市表丹沢屋外活動研修センター

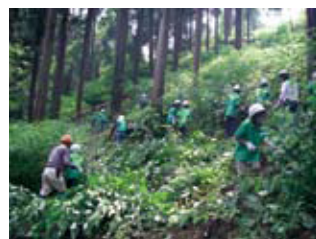
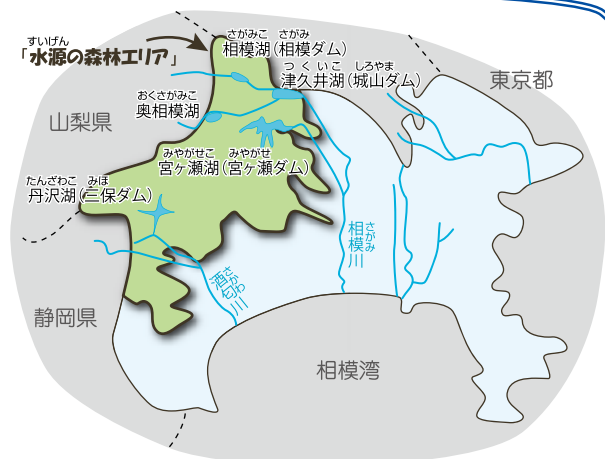
！ すいげん 水源の森林づくり

かながわ 神奈川県では、森林整備のひとつとして、「水源の森林づくり」を行っています。

これは、「水源の森林エリア」内に森林をもっている人が、森林の手入れをするときに県がその費用の一部を補助したり、水源の森林をもっている人から県が森林を預かったり、買い取ったりして、手入れを行うしくみです。

また、森林づくりのボランティア活動（枝打ち、かんぼう、したくさか 下草刈りなどの作業）の募集や水源の森林づくりの募金・寄付などの活動も行っています。

水源の森林づくりは、城山ダム、宮ヶ瀬ダム、三保ダムの上流を中心とした約 62km<sup>2</sup> を対象としています。そのうち私有林は約 41km<sup>2</sup> で、さらにその約 2/3 について県が協力して整備を行っています。



ボランティア活動のようす

## ◆ 7. 里山のピンチ ◆

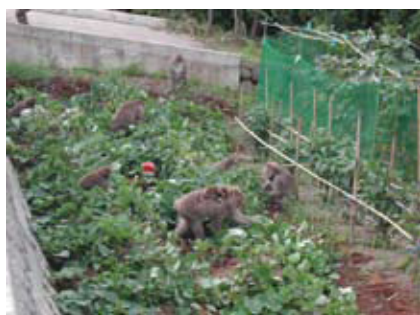
林業や農業がふるわなくなるとともに、便利なくらしになれてしまうと、里山の人たちのくらしも、自然との関わりあいが少なくなってきました。

その結果、手入れ不足の森林や農地が多くなり、昔の風景が失われたり、生きものの種類や数が減ってきました。まつりや生業もあとを受け継ぐ人が少なくなり、地域の活気やまとまりもうすれてきているようです。

さらに、野生動物による農業などへの被害もくい止められなくなってきました。



自分たちの手で自然の恵みを活用していたころ



サルによる農作物の被害



鳥獣被害調査のようす

### ■ 里山のくらしを守るために ■

里山の自然環境とくらしを守るためには、里山の人でも都会の人でも里山の大切さと魅力に気づくことがまず必要です。

そのためには、動物の被害を防ぎながら自然と上手につき合っていく方法や里山の生業とその生産物についてもっと知ってもらうことが大切です。

さらに農業体験や炭づくり、ソバうちなど、その地域の文化を体験することで、都会と里山の交流を進めていくことも大切です。



炭焼き体験のようす

## ◆ 8. オーバーユース ◆

丹沢山地には、年間約 30 万人の登山者がやってきます。とくに利用の多いコースは、下社から大山の山頂へ行く道、塔ノ岳へ行く表尾根と大倉尾根、檜洞丸へ向かうツツジ新道などです。それらのコースでは、登山道が荒れてしまうなどが問題になっています。



荒れてしまった大倉尾根



整備後の左写真と同じ場所

### ■ 丹沢をまもるために ■

オーバーユースについてみんなでいっしょに考え、力を合わせて登山道の補修などを始めました。自然とみんなの使う施設の両方を大切にすることを広めていきます。



登山道が雨水で削られないように、水を流すみぞ（水切り）を置きます。



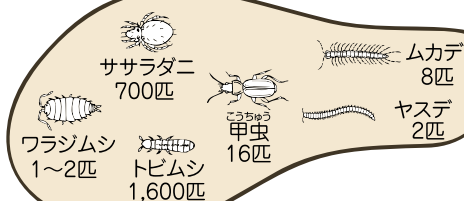
登山道にウッドチップをしいて整備をします。



電気も水道もない檜洞丸にあるバイオトイレ。微生物の力でウンチやオシッコを分解します。

### ！ たった一步の影響 !

丹沢の森林を歩くとき、たった一步、登山道からはみだしただけでも、こんなに多くの生きものを、踏んでいることになります。  
(菰釣山山腹イデン沢の森での調査より)



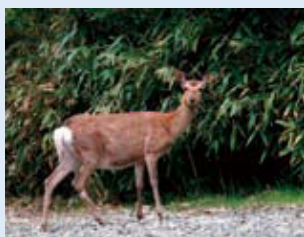
# 丹沢を元気にするために

私たちの暮らし方や行動で、丹沢を元気にすることが出来ます。ここにいくつかの例をあげました。

他にもどんなことができるのか考えてみましょう。

## ◆シカの数を管理することが必要なことを理解しよう◆

丹沢の森林を元気にするため、長い時間をかけて調査をしながら、シカの数を管理します。



## ◆マナーを守って楽しい登山をしましょう◆

- 登山道からはずれて歩かない
- ゴミは自宅まで持ち帰る
- 野生動物にエサを与えない
- 植物や動物を持ちかえらない、傷つけない



## ◆エコツアーに参加しよう◆

自然観察や自然の素材を使った遊びなどを通じて自然の素晴らしさや大切さを体験するためのイベント（エコツアー）を行っています（ビジターセンターなど）。



## ◆丹沢の生業を体験してみよう◆

農家の人に教えてもらいながら、野菜やソバを育てています。みんなで育てた野菜やソバは一味ちがうよ。



## ◆自然環境保全センターへ行こう◆

丹沢を元気にするための研究や事業を実施しています。みんなの参加できる保全活動も実施しています。

また、傷ついた鳥やけもの保護なども行っています。

自然観察園では四季折々の生きものたちの生活を観察することができ、館内では自然観察を楽しむための情報を集めることができます。



◆ビジターセンターに行ってみよう◆



閉館しました

みやがせ  
宮ヶ瀬ビジターセンター



閉館しました

たんざわこ  
丹沢湖ビジターセンター



はだの  
秦野ビジターセンター



たんざわ  
西丹沢自然教室

丹沢には2つのビジターセンターがあるよ。  
丹沢の自然や生い立ち、歴史などいろいろな情報がいっぱい。  
自然観察会やクラフト教室などイベントに参加してみよう。  
※2、3ページのイラストマップで探してみよう！

たんざわ  
元気な丹沢を未来へ！

たんざわ  
◆丹沢について学習してみよう◆



丹沢の自然や保全について、知識を  
深めてみよう！クイズに答えながら、  
楽しく学習できます。

「自然学習システム」

■財団法人かながわトラスティみどり財団

横浜市西区岡野 2-12-20

<サイト>

<http://park2.wakwak.com/~k-trust/gakusy/land.htm>

たんざわ  
◆毎日の生活で丹沢を守ろう◆



ブナが枯れる原因ともいわれる大気汚染  
は、私たちのくらしと深い関係があります。

出かける時は、できるだけ歩きや自転車、  
またはバスや電車などの公共交通機関を利用  
して、大気汚染の原因になる自動車の排  
気ガスを減らしましょう。

せきにん  
◆ペットは責任をもって最後まで飼おう◆



お店で買ったり、人からもらった生きものは逃がさ  
ないよう、放さないように、責任をもって飼いましょ  
う。丹沢で手に入れた草や木の種でも、丹沢のほかの  
場所にはまかないようにね。

